



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 平成20年度 昭和大学入学式 挙行される

歯学部長 宮崎 隆

去る4月11日(金)午前10時より、原宿の明治神宮会館に於いて、平成20年度昭和大学入学式が執り行われました。前日夜まで冷たい雨が降り続いたので当日の天候が心配でしたが、幸い雨もあがり、明治神宮境内は櫻などの新緑が眩しく春の爽やかな息吹の中での入学式になりました。



会場は医歯薬保健医療学部の新入生602名(編入生を含む)と保護者で、2階席まで埋め尽くされました。昭和大学管弦楽団の格調高い演奏に引き続き、役員が登壇して会が始まりました。細山田学長が昭和大学において真の医療人を育成するために問題発見解決型の新しい教育を採り入れていることを紹介し、医療人の原点を忘れないようにチーム医療のスタートを富士吉田の寮生活で送るようにと力強い告辞をされました。続いて小口理事長から昭和大学のファミリーになったことを祝福するとともに、寮生活を通じて建学の精神である至誠一貫を目標に、知識、技能、態度だけでなく他人を思いやる心を養うようにと激励がありました。

各学部の代表による新入生の宣誓があり、歯学部を代表して、山本恵さんが超高齢社会を迎えて歯科医療の重要性が益々高まるので責任を果たすべく学業に励みたいとの宣誓をしました。在校生を代表して、新入生歓迎行事実行委員会の神山君と大田さん(薬学部4年)から歓迎の挨拶があり、引き続き応援指導部の演武がありました。最後に校歌を斉唱し、閉会しました。



新入生は昼前に26台のバスに分乗して富士吉田キャンパスに向かいました。天気が回復し、目のさめるような青空になり、雪を抱いた霊峰富士が新入生を迎えてくれ、思い出に残る入学式になったと思います。新入生におかれては、富士吉田キャンパスの1年間で大きく成長して旗の台キャンパスに戻ってきて欲しいと思います。

## ハイテク・リサーチ・センター研究発表会報告

口腔生化学教室 宮本 洋一

昭和大学歯学部ハイテク・リサーチ・センターの平成19年度研究成果発表会が平成20年3月22日(土)、歯科病院第1臨床講堂および第1会議室を会場として開催されました。昭和大学大学院歯学研究科は、平成17年度から5年間の予定で、文部科学省ハイテク・リサーチ・センター整備事業「顎口腔機能障害の発症機序究明とその機能回復に関する先進的研究」を実施しており、今回は、その3回目の研究成果報告会です。



宮崎歯学研究科長の開会挨拶に続き、第一部の特別講演会では、人間型ロボットの世界的権威である早稲田大学理工学術院教授・高西淳夫先生による「ヒューマノイド・ロボット研究とその医療・福祉への応用」についての非常に興味深い講演が約1時間半ありました。その後、座長の歯科矯正学講座教授・榎宏太郎先生を中心にフロアーからも活発な議論がなされ、瞬間に2時間の特別講演会が終了しました。

第二部では、各研究班の19年度における研究成果がポスター討論形式で発表されました。「顎口腔機能障害の発症機序解明」班から7演題、「先進的診断・再建法の確立」班から8演題、「新しいリハビリテーション歯学の構築」班から4演題、計19件の報告がありました。活発な議論の後、岡野友宏歯科病院長の挨拶で全ての会が終了しました。

今回の研究発表会は、4年目に入る本プロジェクトの遂行にとって有意義なものとなりました。準備運営担当の歯科矯正学教室、口腔生化学教室としましては、研究発表をされた先生方をはじめ、多くの皆様のご協力にこの場をお借りして御礼申し上げます。

## 平成19年度臨床研修修了式

総合診療歯科 長谷川 篤司

平成19年度臨床研修医研修修了証授与式が平成20年3月26日(水)、歯科病院1号棟6階第2臨床講堂にて執り行われました。本年度は研修管理委員長(病院長)の呼びかけで、多数の臨床講座教授および診療科科長の参列を得ました。まず、岡野友宏歯科病院長から一人ずつに修了証が授与され、宮崎隆歯学部長より1年間の研修が修了することへの労いと祝辞、そして今後の歯科界の展望などのお話をいただきました。続いて岡野病院長からも労いと祝辞、そして生涯学習についてお話いただきました。この後、本年度臨床研修における最優秀研修医として伊藤学研修医、市川雄大研修医、優秀研修医として渡辺高研修医、丸山敏史研修医が表彰され、伊藤、市川研修医が臨床研修の思い出や感想を述べました。式は終始、厳かな雰囲気で行われました。式後、職員・学生食堂にて祝賀パーティーが催され、研修医はそれぞれ感慨深く1年間の思い出を語り合いました。

## 第3回昭和大学PBLチュートリアルファシリテータ養成ワークショップ開催

歯科医学教育推進室長 片岡 竜太

平成20年3月30、31日(日、月)に、上記のワークショップが開催されました。タスクフォースは片桐富士吉田教育部長、医学教育推進室高木教授をはじめとして、医歯薬保健医療学部と富士吉田教育部より、2名ずつ計11名が努めました。受講者は23名で、各学部よりそれぞれ4~5名ずつ参加しました。歯学部からは中村教授と片岡准教授がタスクとして、山田教授、瀬川講師、大岡助教、望月助教、柴田助教が受講者として参加しました。

ファシリテータ養成のワークショップは、シナリオから学習項目を抽出するところまで行うのが一般的ですが、今回のワークショップは学習項目を自己学習して発表するところまで行いました。自己学習をいかにして充実させるかという大きな問題に取り組む画期的なワークショップとなり、われわれタスクにも勉強になりました。平成18年11月に第1回の4学部横断のPBLワークショップが富士吉田で開催されましたが、早いもので今回3回目となりました。その間に1年次の学部横断PBLは今年2年目を迎え、3年次の学部横断のPBLが12月に旗の台と長津田キャンパスで行



われる予定です。タスクや参加者にも、学部横断PBLを経験した先生が増え、ワークショップにおけるディスカッションだけでなく懇親会においても「昭和大学のPBL」を熱く語る先生方が増えてきました。全寮制の富士吉田で開催されるPBLが「昭和大学医療人」である学生を育てるとすると、そのファシリテータを養成する本ワークショップが「昭和大学人」である教員を育てるものであることは疑う余地がありません。

## 歯学部登院式に出席して

歯科病院副院長 榎 宏太郎

新D5の諸君には、D4の私の講義の際にお会いしてからまだ半年しか経っていないにもかかわらず、随分と大人になったような印象を受けました。新品の白衣姿であったことありますが、恐らく皆さんの精神的な緊張や不安が自然と居ずまいを正し、真摯な表情となって伝わってきたのだと思います。

そうであるとすれば、その気持ちを生涯持ち続けて頂きたい。なぜかと申しますと、諸君が臨床医として一人前になるまで、いや、年老いて医療の現場を離れる時まで、常に自分の技術や知識に対する不安感や診療への恐怖を心の奥底に持っていて欲しいからであります。このように書くと、そんな自信の無い歯科医はだめだ、患者に不安を与えてしまう、という意見もあるでしょう。しかし、それは大きな間違いです。自身の技量を過信する者ほど時代に取り残され、大失敗に遭遇します。ですから、不安を抱きつつも安心や思いやりを与える術をも身につけて下さい。これは大変な試練です。不安感や恐怖感を忘れ去るのではなく、それらを払拭するために学び続けることこそが医療人としての宿命です。そして、その過程を生き甲斐であると思えるようになった時、初めて、天に与えられた職であると思えるのではないのでしょうか。

学問する日々や技能を修練する期間には、時として孤独感や寂寥感、屈辱感までも味わうことでしょう。しかし、それに打ち勝つ戦士であればこそ、他人にやさしくなれるはずで。

二年後、清々とした三月の空の下で、歯科病院の新たな戦友として諸君らと話せる日々を楽しみにしております。



## 平成20年度歯学部進級式

教育委員長 佐藤 裕二

4月1日にD2からD6の進級式が挙行されました(D5の登院式については別稿)。従来のオリエンテーションではなく、一昨年度からセレモニーとして開始した進級式です。学部長、学生部長、教育委員長をはじめとして、指導担任の先生方にも参加をお願いしました。

4月1日の進級式は教員、教務、学生部をはじめとして、本当に多くの方のご協力により無事に終了しました。教育委員長は歯科病院と旗の台の間を何度も走り回らなければなりませんでしたが、国家試験の難化、共用試験の導入、進級判定の厳密化のなかで、学生たちは神妙な面持ちで参加していました。2年生から歯科病院に来る実習を開始しますので、2年生でも「ヒポクラテスの誓い」の宣誓を行わせました。この緊張感を持続して勉学に励んでくれることを期待しています。

## 平成20年度臨床研修開始

総合診療歯科 長谷川 篤司

平成20年度臨床研修がスタートいたしました。本年度プログラムでは、より充実した研修を提供するために、長期(約6ヶ月)にわたって同一施設あるいは診療部門で研修を続けられるように計画しました。研修医数は、歯科医師国家試験成績不良による研修辞退者が28名にのぼり、最終的に67名(昭和大学卒業生44名、他大学卒業生23名)で研修を開始することとなりました。

初日の4月1日(火)、まず、研修医たちは午前中に旗の台キャンパス上條講堂に集合して全学合同の入職式に臨み、午後は歯科病院1号棟6階第2臨床講堂に移動して歯科病院の入職式に参加しました。入職式では岡野友宏病院長(臨床研修管理委員長)から「研修医自身が研修の主人公であることを忘れないで欲しい」、長谷川篤司総合診療歯科科長から「自己啓発を心がける1年にしよう」と祝辞とともに激励を受けました。

式後の入職オリエンテーションでは、PCのウイルス対策(古屋教授)、医薬品の取り扱い(岡田薬局長)、保険医登録(管理課)についての説明および注意が喚起されました。2日から4日までのオリエンテーションでは、医療安全(片山客員教授)、感染予防対策(山崎感染予防対策副委員長)、医事紛争(鈴木顧問弁護士)、守秘義務(池田助教)、接遇(山岸NHK学園講師)、カルテ記載(真鍋准教授)など医療担当者としての基本知識に加えて、歯内療法の基本(佐久間客員教授)、X線装置の取り扱い(関講師)、義歯装着時の注意点(豊嶋客員教授)など臨床で高頻度に

遭遇する基本技能のレクチャーを受けました。4月7日より各施設あるいは診療部門で、本番の研修が開始されます。

## 平成20年度D6選択実習開始

選択実習委員長 山本 松男

歯学部6年生は3月31日から6月6日までの期間を利用して、2週間を1単位とした臨床・基礎プログラムを2単位選択する「選択実習(必修)」を開始しました。選択実習の必修化3年目となりました。

現在の日本社会は、戦後の世界に類を見ない復興と経済の急成長により大変豊かな国になりました。長寿大国であります。超高齢社会に突入し、医療や福祉の面で我が国独自の努力を切り開いていく必要があります。これは政策や大学病院での医療、研究に限るものではなく、最も重要なことは地域社会の中で役に立つ、安心して安全な医療の提供を継続することです。これからの医療のあるべき姿を、医療の現場で切り開いていくことのできる歯科医師が求められています。そのために、昭和大学歯学部では、自らが進んで学習する習慣を身につけた歯科医師、医療連携の重要性を理解し社会性のある歯科医師、生涯にわたって学習し続ける歯科医師を育成することを大きな目標に掲げてカリキュラムに工夫を凝らしています。その中でも、最終学年で実施されるのが選択実習であり、各自の問題意識にそってプログラムを選択し、自らの能力に広がりを与えるように狙ったものです。

選択実習を終えて卒業していった学生より、自分の視野が広がったことや知識がどのように現場で活かされているのかが実感出来たこと、また昭和大学歯科病院以外の組織を経験しマッチング等の選択にも大変参考になったなどの意見を聞きました。一方で、受け身的な態度が残り、本来の広がりという点でもう一步であったというケースもありました。

選択実習で学ぶ内容は、決して歯科医師国家試験に直結するものばかりではありませんが、本来の歯科医師として成長をしていくために大変重要になる経験をするものがたくさん含まれています。

今後も有意義な実習になるように、学生諸君には積極的でより高い意識を持った取り組みを期待します。

## 行事予定

広報委員長 五十嵐 武

- 5月24日(土): 昭和大学旗の台(春季)公開講座
- 5月24日(土): CBTワークショップ
- 6月 7日(土): PBLファンリテータ養成ワークショップ
- 6月14日(土): 昭和大学白菊の集い
- 6月21日(土): 父兄会総会
- 6月21日(土): 臨床研修採用説明会

## 教室紹介 歯科薬理学教室

歯科薬理学教室 山田 庄司

歯科薬理学教室の研究室は、旗の台の1号館3階にあります。医学部、薬学部の薬理学教室の隣です。歯学部開設当初から薬理系教室は3階にまとまっていたため、学生実習器具の貸し借りなど、学部を超えた交流が盛んに行われています。旗の台の基礎系教室は将来センター化され、全ての教室で学部を超えた交流が盛んになることと思います。

歯科薬理学教室は姥山良雄教授が開設されましたが短期間で新潟大学歯学部へ転出され、鶴見大学歯学部の助教授であった松本章教授が就任され、教室の基礎を築かれました。私は松本教授が北海道大学へ転出された後を引き継ぎ、3代目になります。いずれも初代歯学部長であった岡田正弘先生の門下生で引き継がれています。現在、教授1、准教授1、講師2、助教2、研究補助員1、大学院2、留学生1で構成されています。

岡田先生は「硬組織の生理薬理」という広い研究テーマを掲げ、その範囲内で興味のあることを自由に研究すべきであるという信念で教室を運営されていました。昭和大学の3代の教授もこれを引継ぎ、現在では3つのグループで研究を行っています。(①破骨細胞の分化誘導グループ、②機械的刺激の骨芽細胞への影響、③象牙芽細胞の分化誘導)。

歯科薬理学教室では大学院生も含め、研究成果は英文誌への投稿を原則としています。国内外の研究機関との共同研究を活発に行い、国際レベルの研究活動を続けます。



## 昇任

広報委員長 五十嵐 武

代田 達夫: 准教授(顎口腔疾患制御外科学: 4月1日付)  
天野 均: 准教授(歯科薬理学: 4月1日付)  
伊佐津 克彦: 講師(総合診療歯科: 4月1日付)  
村田 尚道: 講師(口腔衛生学: 4月1日付)  
平野 薫: 講師(口腔リハビリテーション科: 4月1日付)

## 昭和大学歯学部同窓会ポストグラデュエートセミナーのお知らせ

歯学部同窓会学術委員広報担当 野中 直子

2008年度 第1回 昭和大学歯学部同窓会ポストグラデュエートセミナーを開催いたします。同窓生以外の方の受講も可能ですので、是非ご参加ください。

◆日 程: 平成20年5月25日(日) 10:00~17:30  
◆会 場: 昭和大学旗の台校舎4号館5階500号教室  
◆演題名・講師:

【第一部】10:00~12:45

「最新の画像診断装置の現状と今後」

ーデジタルシステムとコンビームCTを中心としてー  
佐野 司 先生(東京歯科大学 歯科放射線科教授)

【第二部】13:45~17:30

「インプラント治療の現実と幻想」

ー氾濫する情報に惑わされないためにー  
矢島 安朝 先生(東京歯科大学 口腔インプラント学研究室教授)

\*協賛企業9社によるミニデンタルショーを開催いたします。

◆受講料: 歯科医師・9,000円(当日10,000円)/  
スタッフ・4,000円(当日5,000円)

\*日本歯科医師会生涯研修認定(生涯研修 IC カードをお持ち下さい。)

◆申し込み方法・お問い合わせ先: 昭和大学歯学部同窓会事務局

TEL: 03(3784)8077 FAX: 03(3784)4029

受講ご希望の方は、5月19日(月)までに事務局にお問い合わせください。

## 診療統計(平成19年3月分)

医事課課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	20,037	801.5	729.8	783.8
入院患者	399	12.9	13.3	15.2

## 編集後記

歯科薬理学教室 坂井 信裕

年度始めのお忙しい時期にも関わらず、ご寄稿頂きました先生方には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。先日、第101回歯科医師国家試験の結果が公表されましたが、全国合格率が過去最低となりました。近年の相対評価に伴い、選抜試験の様相を呈しており、新たに歯科医師の資格を有するには本当に厳しい状況になってきました。ご指導にあたる先生方に於かれましても、更にご尽力されることと思います。講義などでご多忙を極めると存じますが、皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。